

## 6) 敷地内の通路



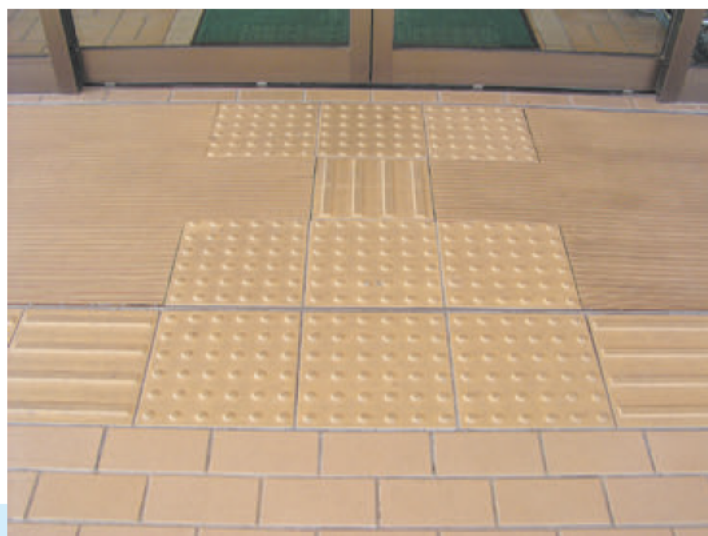
建物のエントランス周辺ですが、段差解消のため境界ブロックを傾斜タイプのも  
としてしています。また、境界ブロックと路面  
の色彩との明度差を大きいものとしていま  
す。



建物エントランス付近に段差が生じてい  
ましたが、ステンレス鋼板をボルト固定す  
ることで段差解消しています。



建物エントランス付近にL型側溝による段差が生じていましたが、ステンレス鋼板をボルト固定することで段差解消しています。



視覚障害者誘導用ブロックと路面の色彩の明度差がないのは良くないのですが、玄関マットを路面に埋め込み設置できるようにすることで、玄関マットが視覚障害者誘導用ブロックを隠さないよう固定できます。



敷地内の通路の縦断勾配を20分の1以下となるよう、車路に影響がない範囲で延伸した事例です。



階段の段鼻と路面の色彩の明度差を大きいものとするため、黄色のプレートを後付けした事例です。





車道交差部路面に凸部を設けることで、敷地内の通路の安全な通行を確保しています。車両速度の減速効果があります。また、車道路面と敷地内通路路面の色彩の明度差を大きいものとする事で、歩行者と車両の区分がわかりやすいよう工夫されています。



曲線の傾斜路ですが、傾斜路センターにて規定の勾配を確保しています。なお、傾斜路には横断勾配を設けていません。





敷地内の通路のグレーチングです。つえ、車いすのキャスター等が落ち込まないように、グレーチングの前面に網目状のスクリーンを設けています。



敷地内の通路への出入口に門扉のレールによる段差が発生しているのですが、塩化ビニル管を利用して段差の解消を行っています。



視覚障害者誘導用ブロックの上に自転車などを止めないように、注意喚起する文字を配置しています。





階段の段鼻と路面の色彩の明度差を大きいものとするため、段鼻に着色を行っています。また、手すりを識別しやすいように、蛍光テープ、印字テープを利用した文字による注意喚起を行っています。



手すりを識別しやすいように、着色テープによる注意喚起を行っています。





手すりを識別しやすいように、白色ポールに着色テープを貼り付けたものを添えて、注意喚起を行っています。



プレキャスト製の歩車道境界ブロックを車止めとして利用していますが、識別しやすいように着色を行っています。



自転車車庫に通ずる通路に路面表示にて案内を行っています。